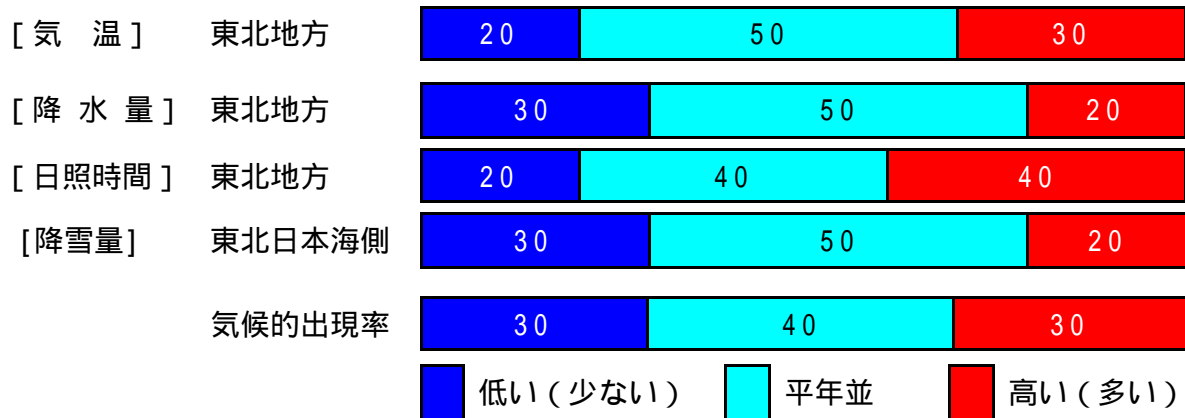


東北地方 1 か月予報の解説（予報期間：12 月 18 日～1 月 17 日）

平成 11 年 12 月 17 日 仙台管区气象台

1．向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間、降雪量の各階級の確率（％）



[気 温]: 東北地方は「平年並」の可能性が大きく、その確率は 50％です。次に大きい確率は「高い」で、その確率は 30％です。「低い」の確率は 20％と小さい。

[降 水 量]: 東北地方は「平年並」の可能性が大きく、その確率は 50％です。次に大きい確率は「少ない」で、その確率は 30％です。「多い」の確率は 20％と小さい。

[日照時間]: 東北地方は「平年並」か「多い」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ 40％です。「少ない」の確率は 20％と小さい。

[降 雪 量]: 東北日本海側は「平年並」の可能性が大きく、その確率は 50％です。次に大きい確率は「少ない」で、その確率は 30％です。「多い」の確率は 20％と小さい。

2．予想される天候の特徴

（もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。）

向こう 1 か月

東北地方は、平年と同様に冬型の気圧配置となる見込みです。1 週目に一時強い寒気が入る見込みですが、期間を通しては寒気の入る時期と冬型のゆるむ時期があるでしょう。このため、東北日本海側は曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側は晴れの日が多いでしょう。

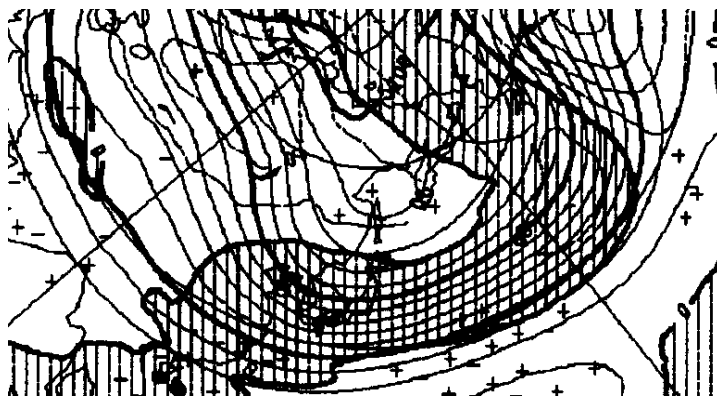
この期間の平均気温は平年並の見込みです。また、東北日本海側の降雪量は平年並の見込みです。

平年の晴れ日数は東北日本海側で約 6 日、東北太平洋側で約 19 日です。

各予報期間の天候の特徴

- 1 週目…………… 向こう一週間は冬型の気圧配置が続き、東北日本海側を中心に雪の降る日が多いでしょう。東北太平洋側の沿岸部ではおおむね晴れますが、期間の中頃に気圧の谷の影響で雪の降るところがある見込みです。
平均気温は平年並の見込みです。
平年の晴れ日数は東北日本海側で約1日、東北太平洋側で約5日です。
- 2 週目…………… 冬型の気圧配置となりますが、緩む時期がある見込みです。東北日本海側は平年に比べ曇りや雪または雨の日が少ないでしょう。東北太平洋側は平年同様晴れの日が多いでしょう。
平均気温は高い見込みです。
平年の晴れ日数は東北日本海側で約2日、東北太平洋側で約5日です。
- 3～4 週目…………… 冬型の気圧配置となるでしょう。平年同様、東北日本海側は曇りや雪の日が多く、東北太平洋側は晴れの日が多いでしょう。
平均気温は平年並の見込みです。
平年の晴れ日数は東北日本海側で約3日、東北太平洋側で約9日です。

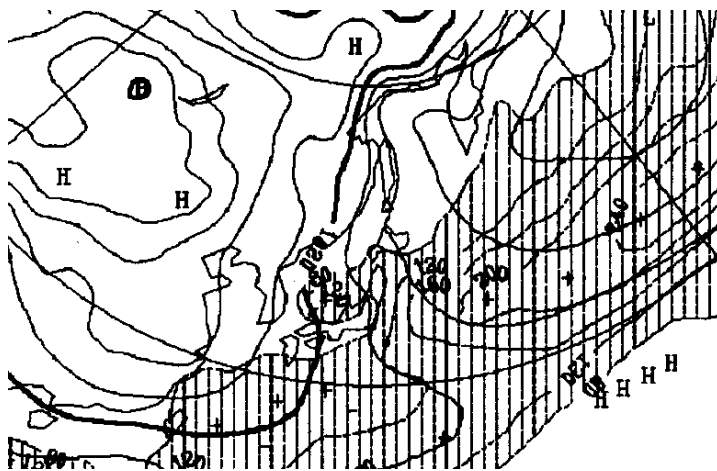
予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）



月平均の 500hPa 高度・偏差
(等高度：60m 毎、偏差：30m 毎、陰影部：負偏差)

・500hPa 高度・偏差

月平均でみると、日本付近は広く負偏差に覆われる。日本付近の上空の気圧の谷の軸は大きく西にかた寄っており、寒気は西日本中心に入りやすい。2 週目（図略）は、日本付近広く正偏差に覆われる。3 週目以降（図略）は、日本付近は北海道を除き弱い負偏差になっている。



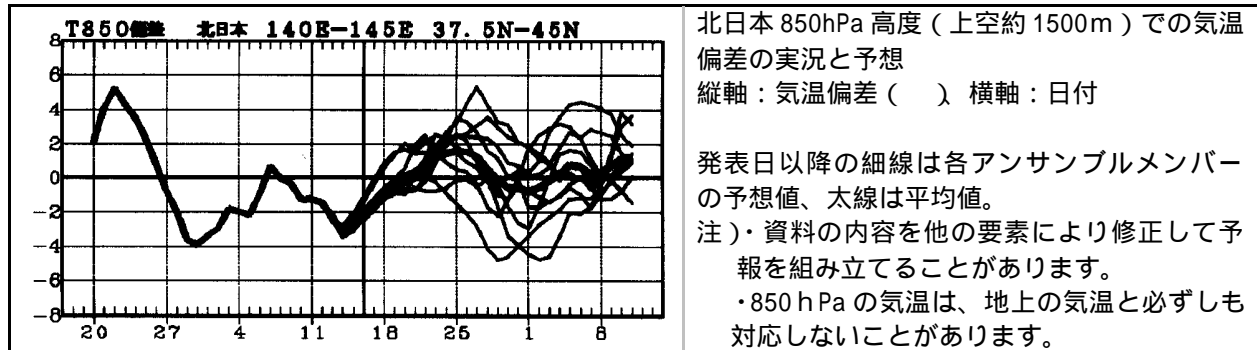
月平均の地上気圧と降水量
(等圧線：4hPa 毎、降水量：40mm 毎、陰影部：80mm 以上)

・地上気圧と降水量

月平均でみると、大陸から西日本付近まで高気圧が張り出し、ベーリング海方面には低気圧があつて、日本付近は冬型の気圧配置となっている。これに伴う降水域は日本海中部と日本の東海上に広がる。2 週目（図略）は気圧パターンは冬型だが、日本海側の降水が殆ど予想されていない。3～4 週目（図略）は月平均と同様、日本海から日本の東海上まで降水域が予想されている。

3. 北日本 850hPa の気温偏差の実況と各アンサンブルメンバーの予想

北日本 850hPa の気温偏差は、アンサンブルメンバーの平均でみると、1 週目始めは負偏差で 1 週目後半から 2 週目前半にかけて正偏差、その後はほぼ平年並で推移しているが 2 週目以降はメンバーのバラツキが大きく、信頼度は小さい。

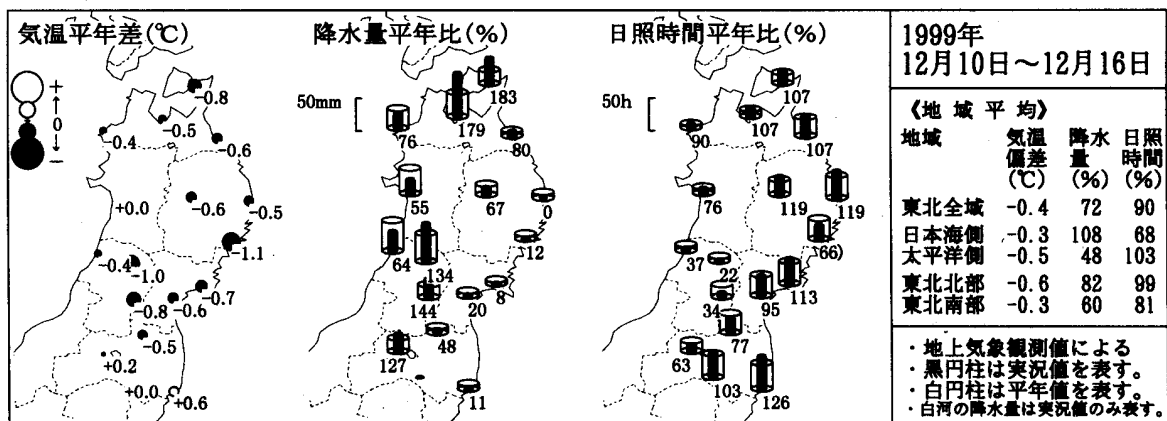


注：1 か月予報では、よく似た初期値から出発した 10 個の数値予報結果のバラツキ具合から予報の信頼度や確率を計算します（この手法をアンサンブル予報といい、10 個の予報結果のそれぞれをアンサンブルメンバーといいます）。一般に予報結果がばらつかないほど、大気の流れが予測しやすい状態にあると考えられます。このような状態の時は、信頼度が高くなり、確率の大きな予報を出すことができます。

4. 最近 1 週間（12 月 10 日～12 月 16 日）の天候の経過

この期間、期間のはじめ 10～11 日に気圧の谷が通過し、その後 14 日にかけて冬型の気圧配置になり、東北日本海側では曇りや雪の日が続き、東北太平洋側では南部を中心に晴れの日が多くなった。15 日は東北北部は高気圧に覆われたが、東北南部は気圧の谷の影響で一時雪となった。16 日は日本海を進む低気圧が東北地方を通過したため所々で雪や雨が降った。

平均気温は、東北地方で平年差 -0.4 。降水量は、東北日本海側で平年比 108%、東北太平洋側では平年比 48%。日照時間は、東北日本海側で平年比 68%、東北太平洋側で平年比 103%だった。



最近 1 週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）